

体験の利用者の拡大を図るほか、移住に必要な情報を一元的に提供できる体制づくりに着手します。

健全な財政運営の継続

4月から、市税や水道料金などを全国のコンビニエンスストアで納付できる、「コンビニ納付」をスタートし、市民の利便性向上と早期納付による自主財源の確保に努めます。

新年度の一般会計においては、市税収入が対前年度比4.4%の減少となっているものの「将来にわたって、持続可能なまち」を指し、限られた財源の中で、積極的な予算編成を行ったところです。

本市における地方債の残高は、財政健全化を進めた結果、この10年間で、480億円から380億円と、約100億円の縮減となっており、今後も事務事業の見直しや、各種計画の着実な実行により健全な財政運営を継続します。

また、本市の最重要課題である人口減少とそれに伴う地域経済の縮小克服に向け、昨年10月に策定した「稚内市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標の達成に向け、市民の皆さんと危機感や問題意識を共有

しながら、職員一丸となって取り組みます。

わっかない

私が地域に出向き、直接皆さんとお話をする「ふれあいトーク」も2巡目に入りました。

今後、積極的に皆さんとお会いする機会を作り、一人ひとりの思いをしつかりと受け止め、具体的な施策に反映させていきたいと考えています。

本市を取り巻く環境は、依然、厳しい状況にありますが、どんな困難があっても、このまちの未来を切り拓くために自ら先頭に立って進む、この信念は、いささかも揺らぐことはありません。

2年後の平成30年、本市は市制施行70年の節目の年を迎えます。

希望に満ちた、新たな出発の時を迎えることができよう、この1年、一つひとつの課題に誠実に向き合い、市政運営に全力で取り組んでまいります。

市議会議員の皆様をはじめ、市民の皆様の一層のご理解とご協力を心からお願ひ申し上げ、平成28年度の私の市政執行方針いたします。

一般行政報告

※内容は一部を要約して掲載しています。全文は、市ホームページをご覧ください。

上勇知小中学校の閉校について

稚内市立上勇知小中学校は、大正4年に、上勇知教育所として開設して以来、100年の歴史をもち、地域に根差した教育を展開してきました。これまでに卒業生は、小学生1163人、中学生634人を数え、多くの優秀な人材を育成、輩出しています。

水道部風力発電施設の再稼働について

過去(昭和15年)には、小学生が155人に及んだ時期もありましたが、その後の人口減少や少子化の影響などもあり、今年度は小学生が4人、中学生3人が在籍するのみとなりました。そうした中、昨年12月に、校区の町内会とPTAから、「今後も児童・生徒数の増加が見込めないこと」、「学校教育の目的の一つである、社会性の育成や、集団を通じて、一人ひとりの児童・生徒の自主性を育むことが困難な状況であること」などの理由から、「学校閉校に関する要望書」が市に提出されました。

この要望を受け、教育委

員会の意見も踏まえながら、十分に検討した結果、地域や保護者の思いも尊重させていただき、今月末をもって閉校することとしました。閉校後は、それぞれ稚内南小学校や稚内南中学校、潮見が丘中学校へ通学することとなっております。上勇知からは、スクールバスの運行により、通学に支障が出ないよう進めていきます。

一方、1号機につきましては、修理の途中において、新たにギアボックス(増速機)や、交換ブレードに不具合が発見されたことから、これらの修理や取替に時間を要しましたが、2月29日に全ての修理を完了し、再稼働いたしました。

市民の皆様には、1号機の再稼働に遅れが生じ、ご心配をおかけしましたこと、改めてお詫び申し上げますとともに、今後の運用に当たっては、定期的な超音波検査の実施などにより、従来以上に安全を確保してまいります。

その後、7月下旬に、経済産業省に対して、事故報告書を提出し、昨年9月の市議会定例会に、再稼働へ向けた修繕のための補正予算を計上し、議決をいただきました。

議決後の10月6日に、こ

れまで、機器の保守をお願いしている、株式会社桜井電業所との間で、事故を起こした1号機は12月21日、その他の2号機、3号機につきましましては、それぞれ11月16日、11月30日を完了予定とする修繕契約を締結し、2号機ならびに3号機につきましましては、予定どおり修理を完了し、すでに再稼働しています。

初日は、異常な暖気で市民雪像が溶けるなどのアクシデントが発生し、また、2日目は、暴風雪により、開催中止となるなど、来場者数は、初日の約4千人に留まりました。屋外でのイベントは、天候に左右されることは避けられませんが、この「わっかない氷雪の広場」は、市民が作り上げる冬のイベントとして確実に定着し、今年は残念な結果でしたが、来年以降も一層の賑わいを期待しています。

また、2月27日、28日の「第33回全国犬ぞり稚内大会」については、今年から会場を大沼特設会場へ変更し開催され、2日間で1万500人が来場し、今年も

全国からの参加者が、熱いレースを展開し、会場を訪れた多くの市民、観光客を魅了しました。

冬季イベントの開催状況について

本市の冬季イベントについては、最北の地で、市民や観光客の皆さんに、雪に親しみ、冬を楽しんでもらおうと多くの関係者が協力

し、さまざまな企画を行っています。2月13日から「わっかない氷雪の広場」は、北防波堤ドーム公園を会場に、今年もスノーモビルショーなどの新たなアトラクションも追加され、北国の冬を子どもから大人まで楽しむイベントとして、本年も開催されました。

実行委員会をはじめ、稚内青年会議所の皆さん、会場施設にご協力いただいた自衛隊の皆さん、雪像を制作していただいた市民の皆さんに改めてお礼申し上げます。

なお、今年度は、JR北海道が新たなツアー企画として、犬ぞり大会を取り込んでいただくなど、観光客の集客面で、地元の活性化に貢献していただきました。

冬の厳しいこの地域ではあります。市民の皆さんや観光客の皆さんに熱く盛り上がりつつも、官民が力を合わせて、さらに、それぞれのイベントを成長させていきたいと考えています。

シンガポールでの観光プロモーションの実施について

2月25日から28日までの4日間、私と稚内観光物産協会長や、稚内観光協会事務局長、礼文町の関係者等、総勢6人でインバウンド観光の拡大や、物産販売の可能性を調査するため、